

加茂里山通信第60回記念号



加茂里山通信

平成30年
春号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長 征矢貫造



里山の春 始動!

昨年(2018年)から今年にかけての冬はかつての冬のようにきつりと寒く、冬らしい冬になりました。そのせいか、3月に入り暖かくなると思ったら一気に春となり、菜の花も桜も例年よりも早く一斉に咲きました。野の草もどんどん伸びてすぐに草刈りが必要な状態です。山側に目を移せば若葉が萌出ています。田んぼが耕され、やがて水が引かれ、田植えが始まっています。里山の春はあたり一面が生に満ち溢れ、日々刻々と情景を変えていきます。

一年で最もダイナミックな変化を遂げる季節です。人もまたこの期間忙しく、それぞれのなすべきことをこなしながら、日々の移り変わりを目の内に入れ替わらせています。去年外れたったタケノコもほとんど出でてきています。ワラビやニギも出ました。

厳しい寒さの冬があつて春らしい春がやってきました。山菜もまた、厳しい寒さの後の春のプレゼントとして里山を大いにぎわわせています。

4月15日に旧里見小で「アートいちばら2018春」に関する会議が、アーティスト、菜の花プレイヤーズ、地域の関係者を集めて開催されました。この席で「アート×ミックス2020」の開催が決定したことが報告されました。3回目のアート×ミックスは東京オリンピックの年に重なります。開催の決定で2年間の準備期間がもうスタートしていることになりました。過去2回の反省を踏まえ、さらに実りある芸術祭となるよう応援したいと思います。またこの日はアーティスト自らが今回の「アートいちばら」への関わり方について語りました。その中で月出工舎の代表である岩間さんから、市との話し合いで月出工舎を2020年のアート×ミックスに向けて恒常的に使っていくようにお願いするようになったのうれしい報告もありました。

(征矢里山通信)



加茂学園は今 旅立ちと新入の春



一人一人思いを抱いて旅立ちの時

平成30年3月9日に加茂学園では第5回卒業証書授与式が行われた。多くの来賓を迎え、小さな1年生から8年生まで全員が厳粛な雰囲気の中で9年生を見送った。

今回の卒業生は加茂学園開校時の5年生。他の小学校であれば高学年であるが、この学校ではちょうど真ん中の学年。こどもも保護者も戸惑いスタートを迎えたが、5年が経ち頼りになる高学年としての姿を見せてくれた。

29年度は生徒会長であった澤野陽香さんが「他学年と遊んで仲良くなる」と呼びかけ『ふれあい昼休み』がスタートした。大きな9年生に甘える低学年の子が多く、仲良くなった9年生とお別れを惜しんでいた。

9年 兼岡守

みんなとの別れは寂しいけれど、5年後、成人式でみんなと会えるのを楽しみにしています。

9年担任 遠藤啓

リーダーを中心に活発に話し合い、保護者の方々や先生方に協力してもらいながら、自分たちで創り上げていく姿が頼もしかった卒業生。これから



みんなに見守られて晴れて入学です

も、自分の良さを生かしてお互いの苦手な部分を埋めながら支え合って欲しいです。



今

平成30年4月10日には入学式があり、20名のかわいい新入生を迎えた。大きな9年生に手を引かれ小さな1年生が入場する光景は、小中一貫教育校ならではのほほえましい瞬間で、保護者も喜んでいる。2年生は初めてできた後輩を前に堂々と学校紹介をすることができた。行儀よく山田校長の話聞いていた新入生の表情は希望に満ちあふれ、輝いていた。成長した1年生姿は次号で紹介するので楽しみに。(生田里山通信員)

なつかしい未来へ向けて



きっと忘れることのない思い出に

年の1月から3月にかけて計5回、小湊鉄道の保線作業が実施されました。(市原市観光協会、喜動房倶楽部、小湊鉄道) 4回目の3月3日に取材しました。この日は子供から大人まで男女合わせて19名が参加。梅の花が咲き誇り、晴れて暖かな気持ちのよい日の中で、高滝工区長の石井さんの挨拶が済むと早速行動開始。レールを枕木に乗せ、固定するための犬釘を重い鎚を使って打ち込む作業に、小さな子や女性も大奮闘。初めて体験する保線作業にみんなが代わる代わる鎚を持ちふるるの連続でした。この日はレール2本分計20メートル位の敷設でした。

今回の保線作業で敷設する距離は5回分で100メートルほどですが、この通称「砂利山線」は総延長1kmと言われています。昭和38年に廃線になったこの路線には土に埋もれた線路がまだ相当あります。

将来的にはそれを掘り起し敷設し直して、トロッコなど子供たちの体験と遊びの場にするとの案も聞きました。なつかしい未来へ向けて線路は続きます。(征矢里山通信員)

編集後記



・1面でも報じた通り、昨年近年にない大外れだったタケノコが今年は大当たり。毎日掘っても次の日はまた芽を出している状態です。夏熱く冬寒いという四季のはっきりした年だったので、そうじの開花はここ何年かで一番遅く、これもまた寒かった日が長く続いたことを物語っています。植物の体内時計のようなものは正確にその年の状況を反映している気がします。

・3回目となるアート×ミックスの開催が発表され、今度どんなものになるのか楽しみですが、

第1回目の構想だった「中房総国際芸術祭」の復活を願います。周辺自治体との連携、そして国際色豊かな、都心から一番近い里山の芸術祭として定着することを願います。今、国内にある地域芸術祭の中で、ひときわ光を放つための工夫を2年かけて準備し、記憶に残り再度訪れたいという気持ちにさせるような芸術祭になるといいと思います。その思いは地域内に住む一人一人のものではありません。かわる多くの人たちの思いが新しい形の芸術祭を造ってついでいくのではないかと私は思います。

(征矢里山通信員)

次回は7月25日発行予定です。

情報提供 取材依頼はお近くの通信員へ。メールでも受け付けます。記事に関するご意見、お問い合わせは左記へ。

市原商工会議所
0436(22)4305 担当 霜崎
Eメール shimozaki@i-coi.or.jp

房総・養老深谷の地酒お土産は 養老深谷駅前 角屋商店 養老深谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL0436-96-1108
FAX0436-96-0052

愛車のある幸せ暮らし 応援します! 安全・安心 有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店 小茶自動車
市原市石神227
TEL0436-96-0482
FAX0436-96-1293

皆様と共に歩む観光 バス釣りの季節到来! 高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277

第60号発行に寄せて

季刊として発行して60号を迎えましたので、加茂里山通信も15年続けてきたことになりました。加茂地区は町会長の集まりはあっても自治組織はないので、情報を共有することがない、という現実がまず出発点でした。

里山からの発信

加茂地区にいてもお互いの地域のこと知らない、それぞれにどういふ行事があつてどういふ人たちが住んでいるのか、そんなこともわからない。かつて加茂村として存在していた時には加茂村議会があつて、加茂のことをいろいろ考え議論し、すこしでも加茂のためによかれというところを考へていたと思ひます。加茂病院はい例ではなかったかと思ひます。また、当時は有線放送もあり、今では考えられないことですが、家庭内に村のいろいろな情報が放送として流れるということもありました。一方的ではあつたものの情報を共有できるという利点がありました。しかし市原市の中の加茂地区となつてからはそういうものもなくなり、市を通じたの「高滝地区」であり、里見地区であり、白鳥地区であり、富山地区でした。加茂地区の情報を共有すること、そこに里山通信の存在意義があると考へました。

えてきました。また、いわきへの支援として山菜の提供の呼びかけに応じて提供してくれたタケノコやフキをいわき市に届け喜んでもらった様子や、その縁で昨年度、いわきから子供たちがこの加茂地区にやつてきたことなども伝えることができました。また、これはおかしな思ふことやこうしたほうがいいだろうと思ふ事については積極的に提案や意見を述べました。各種イベントでの寄付金の偏つた集め方について、花火大会の後のゴミの処理について、他から移り住む人の受け入れ態勢について、言つたからといってすぐ変わるものではないのですが、言わなければ、あるいは言い続けなければ、いつまでたつても変わることはないという経験をつくつか重ねました。



15年の間に加茂地区も随分変わりました。少子高齢化は当然のように進行し、空き家も増えましたが、新しい人たちが住むようになり、小湊鉄道に機関車に引かれるトロッコ列車が走るようになり、高速道路とそのインターが、すく近くにできあつて、バス・タクシーもできました。そしてコンビニが認定されつてつて。加茂地区は私たちが思つてよりも広く、伝えるべきことはまだまだたくさんあります。スタッフ一同心を引き締め、さらに良い紙面づくりに励みたいと思ひます。

(征矢里山通信員)

地域づくり委員ポト4

ハルイチパン

待ちに待った春になりました。菜の花も満開、桜も満開、その間を走る小湊鉄道も満員です。菜の花の開花に合わせて、3月17日から石神菜の花畑にて、揚げたてのポテトチップスの販売と菜の花畑の維持に少しでも協力したい方、ポテチがおいしすぎた方・・・様々な人が予約してくれましたが、皆さんに共通して言えるのは、食の背景への関心の高さ。スーパーで並んでいるものを買つただけでは知ることのできない、商品ができるまで、にどんな方法で、どんな思いをもつて、この商品を作っているのか・・・それを伝えるのが僕の役割で、これからやらなくてはいけないことと思ひます。今まで咲かせるまでは頑張ってきた菜の花を、咲かせた後どう活用するか、どうPRするか、そこを次の世代の僕たちが考え、引き継いでいければと思ひます。



今年は100本限定で予約を受け付けます。予約していただいた方には、収穫し搾油が完了次第、搾りたての菜種油ハルイチパンと、「ハルイチパン」ができるまで」をまとめた小冊子ヨム、ハルイチパンをお届けします。



舌と目で味わつてもらえたら、次のステップは年間体験、種まき、鑑賞、収穫、年間で市原に足を運んでもらい、最後は自分が育てた菜の花から搾った新鮮な菜種油を使って美味いものを作つて食べてもらう、名付けて「ポテトチップス」です。石神菜の花畑に限った話ではありませんが、今後、地元の方だけでは維持管理が難しくなつてくると思ひます。これからは外からの人の力も借りながらこの地域の風景、暮らしを引き継いでいければと思ひます。



菜の花の見ごろが過ぎたら、養老溪谷駅前いつべあde溪谷に移動してポテチの販売とハルイチパンの予約受付を続けます。今年は朝生原でも新たに休耕田を再耕し、菜の花の種をまきます。咲かせるまでが大変ですが、咲いたと思へばあつという間に枯れてしまふます。でも本当に大変なのはこれからです。種の収穫が始まります。同時に小冊子の編集、搾油、発送、夏まで怒涛の日々が続きそうですが、来年も多くの場所で菜の花を咲かせられるよう頑張ります。

(富樫里山通信員)

加茂菜漬講習会NO18

クオードの森（月崎市民の森）で、今年もおいしい漬物の講習会が開催されました。市原市の南部地区の高滝ダムのほとりでは栽培されている加茂菜。アブラナ科の加茂菜と他の菜の花との違いがあり、市原市農業センターでも栽培し研究しているそうです。他のアブラナ科の花と交配してしまつと、葉の形等が変わつて味も変わるとのこと。



今回で9回目の加茂菜漬けの講習会ですが、私自身身数回お邪魔させて頂きました。2月中旬ごろに開催された記憶もあり、本当に気温に左右され短期間の収穫で苦労されているようです。今回の講習会も例年どおり24組程の方が参加されていました。常連さんと言つていい方々から、初めての方や市原市以外の方やおいしい加茂菜を自分で最初から作りたいたいと思つている方で賑わっていました。家族クオードの森を訪れ、お母さんとお父さんと息子は森の中を散歩し、数日後には食卓に加茂菜が並び、こういう参加方法も良いのかもしないと思ひました。高滝の一九会のメンバーが朝加茂菜をとつてくるのですが、その量が多く、大変なことだと思ひました。一人20束を漬物樽に入れて持ち帰ってもらうために、黄色いコンテナボックス2箱と換算しています。予約数量を考えると、48箱の加茂菜の収穫をしている事になります。

(矢代里山通信員)

こつもと紀行 鶴舞病器センターの行方

病院長にお話をうかがう

3月に市議会議員有志と市の担当職員で鶴舞循環器病器センターにお邪魔して、村山病院長にお話を聞く機会をいただきました。医師、医療スタッフの不足するなか、千葉県病院局の方針などもあり、厳しい環境でも地域医療を守るといふ使命感を伝えていただき、多くを教えていただくことができました。

千葉県が昨年発表した県立病院新改革プランでは・・・「循環器病器センターは、循環器病に係る高度専門医療を提供すると共に、幅広い総合型の循環器病器センターを目指し、地域一般医療も担っています。しかし、人口密集地域から離れた立地上の課題等から、近年大患者数が減少していること、循環器病器センターが所在する市原医療圏、隣接する山武長生夷隅医療圏に相次いで救命救急センターが指定されたことを踏まえ、専門性の高い医師をはじめとする限られた医療資源の効率的な配置の観点から、循環器疾患診療における、これらの医療機関との役割分担と連携に係るネットワークについて、県は関係者との協議を進めていきます。」・・・と書かれています。

簡単に言えば、循環器の専門病院として、また、地域一般医療も担っているが、過疎地だから患者が少ない。周辺では救命救急センターができたので効率を考えれば縮小もやむなし。と読めてしまふます。

過疎地だから、高齢化率が高い、地域だから、緊急的な心臓や脳疾患が増えることは当たり前です。ですから、循環器病センターの必要性が高い地



域と言えはるはず。立地の悪い地域に住む市民は、県立病院の効率化の前に命はどうなるのかと言いたところ。救命救急センターも市原市が頼み込んで、お願いして、帝京病院に引き受けていただいています。市や私立病院の頑張りを受けているような県の考え方には到底納得がいかないところ。病院長さんは今後に向けて、千葉大医学部や他の大学も含めて、医師確保に取り組むと言つておられました。本当に限られた条件の中で、一生懸命に取り組み姿勢が伺えます。



最後に病院長さんに「この話を市民向けにしたいだけですか」とお尋ねしたところ、「機会を作つていただければやります」と言つていただきました。鶴舞循環器病器センターの現状と地域とのかかりについて、広く市民の皆さんに聞いていただく機会を作りたいと思ひます。

市議会有志では、今後、労災病院、帝京病院、医師会などのお話を聞きながら、地域医療について調査研究を進めていくことになっていきます。また紙面でお伝えできる機会を持ちたいと思ひます。

病院が支える地域医療 病院や医師の皆さんに地域医療を支えて頂いていきます。時間外診療や救急診療など、労働時間に関係なく医療スタッフの皆さんの頑張りに頼つて、地域医療が守られている現実があります。しかし、

名譽職員と名譽役員

小湊鉄道へは田淵の地磁気逆転層の国の天然記念物指定や国際標準模式地認定に備えて

小湊鉄道へは田淵の地磁気逆転層の国の天然記念物指定や国際標準模式地認定に備えて、月崎駅に名譽職員と名譽役員を配置することにになりました。チバニアンとの報道で月崎駅の利用客が増えたことで、観光案内やおもてなしの推進役を期待しての取り組みとなります。勤務は月曜日と木曜日の10時から15時位まで。小湊OBとして、ボランティアで役割を果たしていただくそうです。

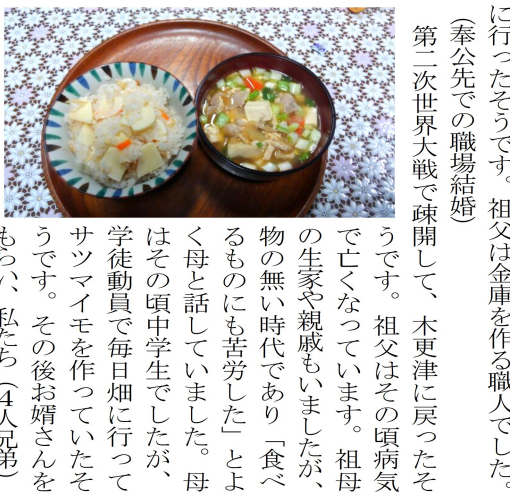


尚、土日祝日はトロッコ列車が月崎駅に停車することになるため、係員が対処すること。小湊鉄道の粋な計らいに感謝したいと思ひます。名譽職員 鈴木哲彌（かずき かつゆみ）、名譽役員 田村孝之（たむら たかゆき）3名とも月崎在住。

鶴舞病院へお邪魔した市議会議員は次の通りです。勝地豊、竹内直子、小沢美佳、増茂誠二、山内一平、大曾根友二（他市職員2名）（大曾根T里山通信員）

里山のこ馳走

第二次世界大戦で疎開して、木更津に戻ったそのうです。祖父はその頃病気で亡くなりました。祖母の生姿、親戚もいまして、物の無い時代であり「食べるものにも苦労した」とよく母と話していました。母はその頃中学生でしたが、学徒動員で毎日畑に行つてサツマイモを作つていました。その後お婿さんを入る事になりました。私たちが4人兄弟が生まれました。田んぼや畑も作っていました。家の周りに実なる木がたくさん植えてあるのはそんな理由だそうです。



柿や栗が実ると収穫し、祖母と一緒に干し柿を作つたり、栗の皮をむいたり、無花果でジャムを作つたりしました。収穫した小豆を煮て餡を作り、米の粉を挽き餅や草団子も手作りです。田んぼの畦には枝豆を作っていました。棒で穴を開けて、そこに大豆を一つずつ落とすというの手伝ったことがあります。鶏を飼ひ卵はいつでも食へ放題。一時期は山羊を飼育して山羊のミルクを絞つて飲んでいました。田んぼではドジョウを捕りました。（祖母しか食へませんでしたけど）春にはワラビやぜんまい採り、キャラブキ作り、秋にはキノコ狩り。自然の中で育ち、毎日が『北の国から』のような自給自足の暮らしでした。おやつといえふふかしたサツマイモやかぼちゃ、とうもろこし。たけのこの皮に包んだ梅干。すかんぼ、つばな、ぐみ、桑の実、野イチゴ、栗、胡桃、びわ、あけび。毎日外で飛び回つていまし



人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111

URL <http://www.sugita-group.com/>



宝船当選者へ引き渡し
今年も宝船への応募をいただき、また貴重なご意見を賜り、ありがとうございました。2月18日に引き渡し式を行いました。御覧のように豪華賞品が贈られ、まさに宝船上の恵比寿さまのような笑い顔になりました。（征矢里山通信員）